

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	国際エアライン科 エアラインコース	夜・通信	1410 時間	160 時間	
	国際エアライン科 グラント・スタッフコース	夜・通信	1200 時間	160 時間	
専門課程	観光・ホテルブライダル科 観光ビジネスコース	夜・通信	1410 時間	160 時間	
	観光・ホテルブライダル科 ホテル・ブライダルコース	夜・通信	1500 時間	160 時間	
専門課程	国際コミュニケーション科 ランゲージコース	夜・通信	1440 時間	160 時間	
	国際コミュニケーション科 コンシェルジュコース	夜・通信	1350 時間	160 時間	
専門課程	国際交流科	夜・通信	330 時間	240 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/">https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/</a>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ ( <a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a> ) にて「役員名簿」を公開
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	物流等関連企業 代表取締役会長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見 財務担当
非常勤	食品等関連企業 代表取締役会長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業 元相談役	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	大学 名誉教授	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見 学事顧問
非常勤	証券業 代表取締役社長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	冷蔵倉庫業 取締役社長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	システム関連企業 代表取締役社長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見 情報 IR 担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校（全学科）
設置者名	学校法人静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画書（シラバス）の作成過程および公表について</p> <p>1 1月～ 次年度授業計画の策定</p> <p>2月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼</p> <p>※授業計画書（シラバス）のテンプレート配布</p> <p>※授業計画書（シラバス）のガイドライン配布</p> <p>3月～ 授業計画書（シラバス）の回収とチェック</p> <p>4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明</p> <p>授業計画書（シラバス）の公表</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/">https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>・授業ごとで出欠席管理を徹底し、授業内での小テストや確認テストによる理解度のチェックを行う。さらに、前期末または後期末、あるいは、その両方においてシラバスに定めた期末試験を実施して評価を行う。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は、科目ごとに素点（0点～100点）、4段階評価（優・良・可・不可）で表示しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価（優・良・可・不可）で表示している。

評語	素点	意味	ポイント
優	80点～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70点～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60点～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0点～59点	到達目標に達していない。	0

成績評価指数＝

{(4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)} ÷ 科目数

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校を卒業する人材は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける、様々な接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持った人材育成が教育目標であり、学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- ・専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
- ・グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力
- ・全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
財産目録	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
事業報告書	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際エアライン科 エアラインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	420 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	90 単位時間 /単位	630 単位時間 /単位	
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人/科		25人	0人	4人	57人	61人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。</li> <li>・個別指導の実施。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	1人 (4.8%)	19人 (90.5%)	1人 (4.8%)
(主な就職、業界等)			
・宿泊業 ・カーディーラー ・小売業			
(就職指導内容)			
・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
・全国手話検定試験 5 級、TOEIC600 点以上、秘書技能検定試験			
(備考)（任意記載事項）			
・本年度は 1 年生が新課程、2 年生が旧課程での構成となっています。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	3 人	8.1 %
(中途退学の主な理由)		
・進路変更の為		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・担任制による状況把握と個人面談 ・保護者との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際エアライン科 グラントスタッフコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	420 単位時間 /単位	780 単位時間 /単位	120 単位時間 /単位	540 単位時間 /単位	
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人/科		37人	1人	4人	57人	61人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等
（概要） ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	1人 (4.8%)	20人 (95.2%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） ・宿泊業 ・カーディーラー ・美容			
（就職指導内容） ・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・全国手話検定試験5級、TOEIC550点以上、			

(備考) (任意記載事項)

- ・本年度は1年生が新課程、2年生が旧課程での構成となっています。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	1 人	2.4 %
(中途退学の主な理由) ・進路変更の為		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制による状況把握と個人面談 ・保護者との連携		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際コミュニケーション科 ランゲージコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	300 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	120 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人/科	46人	1人	4人	57人	61人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等
（概要） ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	1人 (4.0%)	22人 (88.0%)	2人 (8.0%)
（主な就職、業界等） ・物流業界 ・宿泊、観光業界			
（就職指導内容） ・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・TOEIC700点以上 ・TOEIC Speaking Test ・ビジネス英語検定			

(備考) (任意記載事項)

- ・本年度は1年生が新課程、2年生が旧課程での構成となっています。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	3 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) ・精神的体調不良の為 ・学習内容、教育内容のミスマッチの為		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制による状況把握と個人面談 ・保護者との連携		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	国際コミュニケーション科 コンシェルジュコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	300 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	300 単位時間 /単位	単位時間 /単位	660 単位時間 /単位
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人/科	18人	0人	4人	57人	61人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等
（概要） ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80.0%)	1人 (20.0%)
（主な就職、業界等） ・テーマパーク ・宿泊業 ・小売業			
（就職指導内容） ・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・TOEIC450点以上 ・社会人ホスピタリティ検定試験			

(備考) (任意記載事項)

- ・本年度は1年生が新課程、2年生が旧課程での構成となっています。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"><li>・担任制による状況把握と個人面談</li><li>・保護者との連携</li></ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	観光・ホテル・ライダール科 観光ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	480 単位時間 /単位	660 単位時間 /単位	270 単位時間 /単位	450 単位時間 /単位	
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人/科	13人	1人	4人	57人	61人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等
（概要） ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	8人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） ・観光、旅行業界 ・小売業			
（就職指導内容） ・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・国内旅行業務取扱管理者 ・世界遺産検定 ・アマデウスシステム検定			

(備考) (任意記載事項)

- ・本年度は1年生が新課程、2年生が旧課程での構成となっています。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"><li>・担任制による状況把握と個人面談</li><li>・保護者との連携</li></ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	観光・ホテルブライダル科 ホテル・ブライダルコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	330 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	90 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人/科	81人	0人	4人	57人	61人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等
（概要） ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34人 (100%)	0人 (0%)	33人 (97.1%)	1人 (2.9%)
（主な就職、業界等） ・宿泊、ブライダル業 ・美容			
（就職指導内容） ・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・ホテルビジネス実務検定試験 ・レストランサービス技能検定			

(備考) (任意記載事項)

- ・本年度は1年生が新課程、2年生が旧課程での構成となっています。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
79 人	3 人	3.8 %
(中途退学の主な理由) <ul style="list-style-type: none"><li>・進路変更の為</li><li>・精神的体調不良の為</li><li>・経済的理由の為</li></ul>		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"><li>・担任制による状況把握と個人面談</li><li>・保護者との連携</li></ul>		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際交流科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2430 単位時間/単位	60 単位時間 /単位	2250 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	120 単位時間 /単位
			2430 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	68人	66人	3人	57人	60人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 ※様式第2号の3の1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 ※様式第2号の3の3を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 ※様式第2号の3の4も併せて参照。
学修支援等
（概要） ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29人 (100%)	1人 (3.4%)	23人 (79.3%)	5人 (17.2%)
（主な就職、業界等） ・小売業（通訳業務含む） ・宿泊業			
（就職指導内容） ・個別面談、書類、面接指導の実施。 ・企業による業界セミナーの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・日本語能力試験 N1、N2 ・TOEIC			

(備考) (任意記載事項)

- ・本年度は1年生が新課程、2年生3年生が旧課程での構成となっています。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	3人	3.8%
(中途退学の主な理由) ・学業不振の為 ・経済的理由の為 ・家庭の事情の為		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制による状況把握と個人面談 ・自宅への訪問		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
国際エアライン科	180,000円	890,000円	円	
観光・ホテル・ブライダル科	180,000円	890,000円	円	
国際コミュニケーション科	180,000円	890,000円	円	
国際交流科	150,000円	680,000円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/">https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校関係者として、専門分野に関わる団体関係者および航空、観光等関連分野の企業実務者並びに保護者、卒業生の代表と共に、評価委員会を設置し、年に1度、学校関係者評価委員会を開催する。 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的としている。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な評価項目 (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流</li> <li>・評価委員会の構成 定員：10名(企業：8名 卒業生：1名 在校生保護者：1名)</li> <li>・評価結果の活用方法 評価結果について、校長(責任者)を中心とした運営委員会等で改善方を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。</li> </ul>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
矢崎部品株式会社	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社JTB 静岡支店	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社フジドリームエアラインズ	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社ドリームスカイ名古屋	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
ANAエアポートサービス株式会社	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 後援会 会長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	在校生保護者
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 同窓会 会長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生

学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/">https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/</a>
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/">https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/</a>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H122310000401
学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		32人	33人	34人
内 訳	第Ⅰ区分	21人	23人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				35人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期	
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人		-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人		0人
計	0人	0人		-
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。